

「めまい」



カイロプラクティックオフィス SEKI
院長 関 隆 一

患者は、四十代の女性。主訴は、前触れもなく突然のフラフラ感がでて家事や業務に支障が出たとのこと。今までには無いめまい感だった。

【検査1】

前庭が関与する神経システムから眼球運動に関する検査と小脳に関する検査をいくつか行ってみました。サツケード：左側への運動でスムーズさを欠き、ご本人も嫌な感じがした

前庭動眼反射：上下、左右斜めの動きで右三半規管の低下が疑われた

指ノ鼻ノ指：右手が思うように目標を捉えられなかった

つま先ノ踵のつぎ足歩行：問題なし

上肢の連続的な運動：左腕が動きにくくなり、右腕がタイミングのズレが出た

OPKテープ：右から左への方向でややパストのスムーズさを欠いていた

脳血管頭頸部機能テスト：左右ともに気持ち悪さや眼振は確認できなかった

対光反射：TTAやTTFも含め同じくらい縮瞳が確認できました

眉間タツプ：問題なし
以上から私は右三半規管の機能低下を疑いました。

それに関連して同側の小脳と反対側の大脳皮質の機能低下も少々出ていたのかも

しれません。それと今回は大脳皮質機能低下にフォーカスしたわけではありませんのでブラインドスポット検査はあえて行いませんでした。また脳血管頭頸部機能テストで陰性反応が確認され椎骨脳底動脈循環不全の可能性は排除できました。

【検査2】

PCRTのストレスターンの確認の検査で、下肢の緊張と筋力を確認しました。まず「自分が困っているめまい感」を頭の中でイメージしてもらいました。すると明らかな緊張が確認できました。同時に筋力も低下していました。

【治療】

(ストレスターン1)

「五感」↓「聴覚」↓「人の声」↓「他人の声」↓「仕事関係」

職場のスタッフの一人の仕事に対するやり方が納得できなくて、その人の声がどうしても気に入らないとのことでした。これに対するプランイメージは、現実とはかけ離れているが、その人がキツチリと仕事に打ち込んでいる姿を想像したようです。

(ストレスターン2)

「五感」↓「聴覚」↓「人の声」↓「自分の声」↓「内的」↓「仕事関係」

ストレスターン1に関連して、今度はそのことに対する自分の声にならない声、言わば、「心の声」に反応しました。その人に対して「もっとしつかりし

て！」というものでした。プラスは単純に理想をイメージしようです。

(ストレスターン3)

「五感」↓「視覚」↓「モノ」↓「仕事関係」

制服のサイズがピッタリしすぎて動きにくいとのことでした。「身体感覚」↓「動作」ではなく、あくまでも「モノ」に反応しました。プラスは「見た目はステキ」と解釈したようです。

(ストレスターン4)

ストレスターン3を終了したときに、「自分が困っているめまい感」を想像しても反応は消えていました。しかし数年前にもめまいを体験しており、脳が学習している可能性も考えられたので、「めまいで困っている自分をもう一人の自分が見ている」設定でチェックしてみました。案の定、緊張が表れて筋力低下も再現されました。プラスは「治って安心して自分をもう一人の自分が見ている」設定でリラククスパターンが確認できました。

【結果】

治療直後から全く問題なく歩行でき、立ち座りも全く良好でした。本人曰く、「やっぱりストレスターンです」とこぼしています。神経学的検査による前庭器官の機能異常ははじめ、すべて嘘のように消えました。

【考察】

神経学的な複雑なシステ

ムを考えると、それ相応の神経学的なアプローチがあると思います。しかしこのPCRTを実践するたびに「人が身を置く環境から受ける刺激」は誰一人として同じではないと感じます。主義、主張、感性、性格など刺激を受ける側の「人」でも様々であり全く同一の人など存在しません。

身体の仕組みは誰でも同じなのに様々な要素が、それこそ複雑に絡み合い、微妙な「感情」を生み出しているのでしょうか。

徒手医学的、特にオーソドックスなカイロプラクティック的に考えると器質的な変化を除き、「症状」は「サブラクセーション」が原因である」となります。それではサブラクセーションはなぜ起きるのか、という姿勢や動作などが一般的でしょうか。もう少し掘り下げると神経伝達の異常により筋の緊張が発現することになるのでしょうか。なぜ神経伝達の異常が起こるのか、それは脳の整合性が上手く働いていないことなるのでしょうか。なぜ脳が上手く働かないのか、それは脳に入力される様々な「刺激」により誤作動をきたすのだと思います。上記のように複雑な条件が絡み合い一つの「結果」に行き着くことを考えると、「空間・時・個」が本質の一つとして見えてきます。この「空間・時・個」を無視して根本的な解決方法は見いだすことはできないのではないのでしょうか。PCRTは当事者である患者を主体にして、術者の主観を限りなく排除でき、客観的にパターンを判断できる現在最も優れた治療法の一つだと思わざるを得ません。